

## 使用上の注意改訂のお知らせ

2014年8月

吸入麻酔剤

劇薬，処方箋医薬

# 日本薬局方 イソフルラン フォーレン<sup>®</sup>吸入麻酔液

abbvie

製造販売(輸入)元 アッヴィ合同会社

この度、標記製品の「使用上の注意」を改訂致しました。

今後のご使用に際しましては、下記内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

なお、改訂添付文書を封入した製品がお手元に届くまでに、日数を要する場合がございますので、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

### 【改訂内容】(該当部のみ抜粋)

改訂後 (下線部：追記)	改訂前 (取消線部：削除)																				
<p>3. 相互作用 併用注意 (併用に注意すること)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">薬剤名等</th> <th style="width: 35%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筋弛緩薬 ベクロニウム臭化物 スキサメトニウム塩化物水和物等</td> <td>筋弛緩薬の作用を増強するため、本薬による麻酔中、筋弛緩薬を投与する場合には減量すること。</td> <td rowspan="3">相互に作用を増強させるためと考えられる。</td> </tr> <tr> <td>Ca拮抗剤</td> <td>低血圧、陰性変力作用等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。</td> </tr> <tr> <td>中枢神経抑制作用を有する薬剤 オピオイド系薬剤 ベンゾジアゼピン系薬剤等</td> <td>呼吸抑制等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	筋弛緩薬 ベクロニウム臭化物 スキサメトニウム塩化物水和物等	筋弛緩薬の作用を増強するため、本薬による麻酔中、筋弛緩薬を投与する場合には減量すること。	相互に作用を増強させるためと考えられる。	Ca拮抗剤	低血圧、陰性変力作用等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。	中枢神経抑制作用を有する薬剤 オピオイド系薬剤 ベンゾジアゼピン系薬剤等	呼吸抑制等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。	<p>3. 相互作用 併用注意 (併用に注意すること)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">薬剤名等</th> <th style="width: 35%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><del>非脱分極性筋弛緩薬</del> <del>パンクロニウム臭化物</del> ベクロニウム臭化物等</td> <td><del>非脱分極性筋弛緩薬</del>の作用を増強するため、本薬による麻酔中、<del>二種の</del>筋弛緩薬を投与する場合には減量すること。</td> <td rowspan="3">相互に作用を増強させるためと考えられる。</td> </tr> <tr> <td>Ca拮抗剤</td> <td>低血圧、陰性変力作用等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。</td> </tr> <tr> <td>中枢神経抑制作用を有する薬剤 オピオイド系薬剤 ベンゾジアゼピン系薬剤等</td> <td>呼吸抑制等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	<del>非脱分極性筋弛緩薬</del> <del>パンクロニウム臭化物</del> ベクロニウム臭化物等	<del>非脱分極性筋弛緩薬</del> の作用を増強するため、本薬による麻酔中、 <del>二種の</del> 筋弛緩薬を投与する場合には減量すること。	相互に作用を増強させるためと考えられる。	Ca拮抗剤	低血圧、陰性変力作用等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。	中枢神経抑制作用を有する薬剤 オピオイド系薬剤 ベンゾジアゼピン系薬剤等	呼吸抑制等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																			
筋弛緩薬 ベクロニウム臭化物 スキサメトニウム塩化物水和物等	筋弛緩薬の作用を増強するため、本薬による麻酔中、筋弛緩薬を投与する場合には減量すること。	相互に作用を増強させるためと考えられる。																			
Ca拮抗剤	低血圧、陰性変力作用等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。																				
中枢神経抑制作用を有する薬剤 オピオイド系薬剤 ベンゾジアゼピン系薬剤等	呼吸抑制等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。																				
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																			
<del>非脱分極性筋弛緩薬</del> <del>パンクロニウム臭化物</del> ベクロニウム臭化物等	<del>非脱分極性筋弛緩薬</del> の作用を増強するため、本薬による麻酔中、 <del>二種の</del> 筋弛緩薬を投与する場合には減量すること。	相互に作用を増強させるためと考えられる。																			
Ca拮抗剤	低血圧、陰性変力作用等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。																				
中枢神経抑制作用を有する薬剤 オピオイド系薬剤 ベンゾジアゼピン系薬剤等	呼吸抑制等の副作用があらわれやすくなるおそれがある。																				

### 【改訂理由】薬食安通知によらない改訂 (自主改訂)

本剤とスキサメトニウムとの併用により、筋弛緩作用が増強したとの報告があることからスキサメトニウム添付文書との整合をとり、追記致しました。また、パンクロニウムについては販売終了していることから削除致しました。

<参考文献> Caldwell JE, et al. : Anesthesiology 74 : 412-418, 1991

**本剤の最新添付文書情報は医薬品医療機器情報提供ホームページ  
(<http://www.info.pmda.go.jp/>) からご覧下さい。**

abbvie  
製造販売(輸入)元 **アッヴィ合同会社**  
東京都港区三田 3-5-27